

生徒指導だより

防府市立中関小学校

2024. 10. 4

いじめ防止特大号

防府市では、毎年10月を「いじめ防止・根絶強調月間」と位置付けています。いじめの防止に特効薬はありません。中関小学校では、どの学級でもいじめは起こりうるという認識のもと、日常の学校生活の中でさまざまないじめ防止の取組を行っています。本校ホームページ【学校より】に、「中関小学校いじめ防止基本方針」をアップしていますので、是非、ご覧ください。

「生徒指導だより」でも、毎回、本校の取組を掲載しています。一見いじめとは関係のないように見える取組もありますが、このような取組を積み重ねることが、いじめの起こりにくい学校をつくり、いじめの防止につながります。

先日、保護者の方から、「いじめ」にどのように対処していくとよいのかというご相談を受けました。何かヒントになることが見つかると思い、今回は、「いじめ防止特大号」として、4月からの取組を振り返り、言葉を補いながら紹介していこうと思います。



いじめのない学校をめざして



4月号では、始業式で全校児童に伝えた大切にしてほしいこと、「基本的な生活リズムを整えること」「ものを大切にすること」「ルールや約束を守ること」を紹介し、昇降口のくつ箱、教室の環境を整えることをお伝えしました。基本的な生活リズムを整えることについては、養護教諭からも始業式で伝えています。「体」を整えることは、いらいらや不安を和らげ、寛容で思いやりのある言動につながるものです。

5月号では、「自分の物と人の物を区別して生活すること」で、日常のトラブルを減らし、みんなが安心・安全な生活につなげていくことについてお伝えしました。また、「自分の物に記名をすること」の大事さについて紹介しています。実際、一学期中も、靴や上靴を取り違い、行方不明になることがありました。「だれかにかくされた」「いじめられた」と不安にもなります。実際は、くつ箱の場所を間違えて置いてしまったということでした。記名がなければ、誰の物か分からず、間違いも起こりやすくなります。トラブルに巻き込まれないようにするための予防として、こまめに持ち物への記名をしてほしいと思います。

6月号では、「言葉」について、命に関わる暴言、心ないからかいの言葉やジェスチャーを無くしていく大切さについてお伝えしました。「死ね」「消えろ」「ぶち殺す」など、文字にすることも躊躇される、通常の社会生活では、使うことも使われることもない言葉です。まずは、その言葉を使わないこと、学校から無くすことで言語環境を整えていくことを目標にしています。各家庭のご協力も、お願いしたいところです。また、あいさつ運動が始まることも紹介しました。「おはようございます。」「ありがとうございます。」という相手を思いやる言葉をたくさん使うことで、学級でも地域でも多くの人と仲良くなり、楽しい時間を過ごす心地よさを味わって欲しいと思います。

7月号では、長い夏休みを前に、生活リズムを守ったりトラブルを未然に防止したりする観点から、SNSをはじめとした「インターネットとの関わり方」についてお伝えしました。SNSやオンラインゲームの中で、暴言で人を傷つけてしまうこと、写真などの個人情報を流してしまいますことは、厳に気を付けないといけないことです。ネット上のつぶやきや画像なども、安易に発信したり同調したり、その情報を信じて拡散したりすると、知らない人を誹謗中傷することになり、加害者になることもあります。「自分だけではない。」「他の人もしている。」は言い訳になりません。相手の顔が見えないからこそ、相手の気持ちを想像しながら言葉や行動を判断する必要があります。また、友達同士のトラブルも発生しています。スマホ等を使用させている親が、その使用画面を定期的に点検し、不適切な使用に対して指導を行うことも、この小学生の時期には必要です。ネット上での振る舞いについては、各家庭でしっかりご指導ください。

9月号では、合い言葉の「いじめは、しません。」「いじめは、させません。」「いじめは、ゆるしません。」を、全校児童で確認したことを紹介しました。そして、8・9月の生活目標「だれにでもやさしい言葉をつかおう。」に取り組み、思いやりのある言葉がけを増やしながら、集団としても成長することとしていってほしいことをお伝えしました。9月の学校生活を送る中で、友達に向かって「おまえ」という言葉を使っていることが気になり、各学級で考える機会をもちました。中関小学校では、友達は「さん」を付けて呼ぶことが基本です。それが、相手を大切にすることにつながります。

写真は、先日の昼休みに6年生がお世話をしながら、なかよし班のみんなで遊んでいる様子です。みんなが笑顔で遊んでいる姿が、とても微笑ましくうれしく見ていました。このような活動をとおして、互いに認め合い支え合う温かい関係ができることも、いじめを起こりにくくすることにつながります。

学校では、学年の発達段階に応じてさまざまな取組を行っていきながら、いじめを100%防ぐことをめざします。次号からも、引き続きいじめゼロをめざした取組について掲載していきたいと思います。お子様の様子から、不安や悩みに気付かれたときには、是非、学校にご相談ください。



リップクリームや 保湿クリーム等の 学校での 使用について

標記の医薬品等を学校で使用する必要がある際には、担任に連絡帳を通じてお知らせください。

また、色のついたリップクリームや匂いの強い保湿クリームも、避けるようにお願いします。